

高校生 ICT 2015 Conference

in 北海道

言いたい！イマドキのネットのルール&マナー！！

～ 高校生のボクたちだから ～

開催報告書

第一回 2015年9月27日(日) 13:30-17:00

【会場】札幌ユビキタス協創広場 U-cala (内田洋行)
「大人のルール&マナー」

主催

高校生 ICT Conference 実行委員会

共催

内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省

1. 開催概要	1
2. 高校生 ICT Conference 2015 地域開催	3
3. 高校生 ICT Conference 2015 in 北海道 第一回 開催概要	4
4. 主担当	9
5. 高校生 ICT Conference 2015 サミット	9
6. 高校生 ICT Conference 最終報告会	9
7. 高校生 ICT Conference の成果物と終了後の対応	10

1. 開催概要

名 称：	<p>高校生 ICT Conference 2015</p> <p>テーマ</p> <p>言いたい！イマドキのネットのルール&マナー！！</p> <p>～ 高校生のボクたちだから ～</p> <p>第1部「大人のルール&マナー」</p> <p>第2部「大人が作った子どものルール&マナーを考える」</p>
主催：	<ul style="list-style-type: none"> ● 高校生 ICT Conference 実行委員会 <p>(構成：安心ネットづくり促進協議会、大阪私学教育情報化研究会、一般社団法人モバイルコンテンツ審査・運用監視機構、一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 長野教育委員会 (長野のみ) ● 福岡県青少年インターネット適正利用推進協議会 (福岡のみ) ● 公益財団法人ハイパーネットワーク社会研究所 (大分のみ) ● 特定非営利活動法人 NPO 情報セキュリティフォーラム (神奈川のみ)
共催：	<p>内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省、帝塚山大学 (奈良のみ)、</p> <p>大分県教育委員会、大分県高等学校 PTA 連合会 (大分のみ)、</p> <p>神奈川県教育委員会 (神奈川のみ)</p>
後援予定：	<p>一般社団法人全国高等学校 PTA 連合会、一般社団法人電気通信事業者協会、一般社団法人全国携帯電話販売代理店協会、一般社団法人日本スマートフォンセキュリティ協会、特定非営利活動法人コンピュータエンターテインメントレーティング機構、独立行政法人情報処理推進機構、公益財団法人ハイパーネットワーク社会研究所、全国高等学校情報教育研究会、北海道、北海道教育委員会、北海道高等学校 PTA 連合会、北海道青少年有害情報対策実行委員会、大阪府高等学校情報教育研究会、東京都高等学校情報教育研究会、奈良県、奈良県情報教育研究会、奈良県教育委員会、福岡県公立高等学校長協会、福岡県私学協会、福岡県公立高等学校 PTA 連合会、石川県、石川県教育委員会、石川県高等学校長協会、石川県高等学校 PTA 連合会、いしかわ青少年安心ネット環境推進連絡会、北陸携帯電話販売店協会</p>
協賛：	<p>株式会社サイバーエージェント、グーグル株式会社、株式会社ディー・エヌ・エー、グリー株式会社、LINE 株式会社、株式会社ラック、株式会社メディア開発綜研</p>
協力：	<p>アルプス システム インテグレーション株式会社、株式会社内田洋行、株式会社 NTT ドコモ、KDDI 株式会社、ソフトバンク株式会社、一般社団法人情報教育研究所、デジタルアーツ株式会社、株式会社ミクシィ (順不同)</p>
開催目的：	<p>高校生 ICT Conference は、2011 年度に「ICT プロジェクト 高校生熟議 in 大阪～ケータイ・インターネットの在り方&活用法～」として大阪でスタートしました。2012 年度は、東京開催を加え計 17 校 79 人の高校生が参加し、2013 年度は、東京・大阪に加え、北海道、奈良、大分を新たに加えて 5 拠点にて開催し、計 51 校 267 人の高校生が参加しました。2014 度も同 5 拠点にて開催し、計 44 校 221 人の高校生が参加しました。</p>

	<p>高校生 ICT Conference の開催目的には、二つの側面があります。その一つは、教育的側面であり、初対面の人と話し合うという経験の中で、段階的に「考え、まとめる、聞く、話す、見せる、伝える」などの技術を修練することです。第二に社会的に注目を浴びている携帯電話やインターネットをテーマとすることで、大人になる準備段階として、携帯電話やインターネットを安心して安全に使うために、高校生として情報モラルについて自ら深く考え、実践することで、将来のより良いインターネット利用環境の構築の一助とすることです。</p> <p>2015年度は、より全国的な規模での展開に向けて開催地域を拡大、新たに石川、長野、神奈川、福岡を加え開催します。</p> <p>さらに当事者たる高校生の意見を中央に届けるべく、各地域の代表者はサミットにより提言をまとめ、内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省で発表を予定しています。</p> <p>※平成21年4月から施行された「青少年インターネット環境整備法」に基づき、青少年が安心・安全にインターネットを利用するための環境整備が始まった。民間の自主的・主体的取組が鋭意進められていると共に、行政に於いても施行状況の検討が進められている。一方、新学習指導要領が平成23年度の小学校を皮切りに、平成24年は中学校、平成25年度は高等学校で全面実施される。また、急速に普及を始めたスマートフォンや新しいICT（情報通信技術）サービスにおいて、青少年が健全にICTを利活用できるように育成するため、青少年への指導に加え、保護者や教職員への「情報モラル教育」の啓発活動が重要視されている。今年度は、スマートフォンの登場などにより急速に変化したインターネット利用環境下における諸問題について議論し、高校生が家庭や学校で取組むべき課題とともに、行政、事業者等への要望について本取組で提案し参考に資する。</p>
開催の概要：	<p>【各開催地での内容】※日程は、2. 地域開催の欄をご覧ください。</p> <p>・第一部 「大人のルール&マナー」 (1) 挨拶 (2) 講演 (3) 熟議イントロダクション (4) 熟議 (5) グループ発表 (6) 講評</p> <p>・第二部 「大人が作った子どものルール&マナーを考える」 (1) 挨拶 (2) 講演 (3) 熟議 (4) グループ発表 (4) 総評 (5) サミット参加者発表</p> <p>【サミット】「言いたい！イマドキのネットのルール&マナー！！」 ～ 高校生のボクたちだから ～」 (1) 挨拶 (2) アイスブレイク (3) 提言のための熟議 (4) 提言発表 (5) 講評 (6) 最終報告会参加者発表</p> <p>【最終報告会】 内閣府「青少年インターネット環境の整備等に関する検討会」 総務省、文部科学省、経済産業省にて成果・提言報告及び意見交換</p>
各開催地募集人員等：	<p>募集参加生徒 30名 募集見学者各回 30名（各開催地により変動あり）</p>

参加・参観方法：	参加費・参観無料 [要事前登録]
高校生 ICT Conference 2015 実行委員会：	<p>【委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> 米田 謙三 (大阪私学教育情報化研究会 副会長) <p>【コアメンバー】</p> <ul style="list-style-type: none"> 齋藤 長行 (青山学院大学 株式会社 KDDI 研究所) 猪股 富美子 (お茶の水女子大学 人間発達科学研究所) 石田 幸枝 (公益社団法人全国消費生活相談員協会 IT 研究会代表・消費者団体訴訟室長) 植田 威 (特定非営利活動法人 NPO 情報セキュリティフォーラム理事) 小城 英子 (聖心女子大学) 他、関係者団体、事業者等 <p>【事務局】</p> <p>安心ネットづくり促進協議会 〒104-0031 東京都中央区京橋三丁目 14 番 6 号 齋藤ビル 2 階 TEL: 03-3562-8850 FAX: 03-3562-1180</p>

2. 高校生 ICT Conference 2015 地域開催

高校生 ICT Conference 地域開催では参加した高校生が 2 つのテーマに沿った議論を実施し、サミットへ行く代表者を選抜します。

	地域	第 1 回	第 2 回	会場
地域開催	北海道	2015 年 9 月 27 日 (日)	2015 年 10 月 18 日 (日)	札幌ユビキタス協創広場 U-cala
	石川	2015 年 9 月 13 日 (日)	—	金沢商工会議所
	長野	2015 年 9 月 5 日 (土)	2015 年 10 月 3 日 (土)	松本駅前会館
	東京	2015 年 10 月 11 日 (日)	—	東京ユビキタス協創広場 CANVAS
	神奈川	2015 年 10 月 4 日 (日)	—	岩崎学園
	大阪	2015 年 7 月 25 日 (土)	2015 年 9 月 20 日 (日)	① 内田洋行 ②大阪私学会館
	奈良	2015 年 7 月 26 日 (日)	—	帝塚山大学 東生駒キャンパス
	福岡	2015 年 9 月 12 日 (土)	—	ガスホール
	大分	2015 年 8 月 29 日 (土)	—	アイネス、大分県消費生活・男女共同参画プラザ
サミット		2015 年 11 月 3 日 13:30~17:00		東京ユビキタス協創広場 CANVAS
最終報告会		2015 年 12 月中旬頃		

3. 高校生 ICT Conference 2015 in 北海道 第一回 開催概要

概要	<p>高校生、教員、企業関係者など約 50 名の参加者を得て、「大人のルール&マナー」をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。</p> <p>【リアル熟議】</p> <p>主旨説明 羽衣学園高校 米田 謙三 先生</p> <p>ICT カンファレンスの意義や目的など、あわせて本日の進行について説明しました。</p> <p>開会の挨拶</p> <p>内閣府 政策統括官（共生社会政策担当）付 参事官補佐 清水 泰貴 様</p> <p>高校生 ICT Conference2015 の意義及び内閣府の役割についてもあわせて紹介いただきました。</p> <p>第一部 事業者による講演</p> <p>企業さんがあらかじめ自分達でテーマを決めて、短い時間で以降の熟議につながる内容をそれぞれ講演してくださいました。</p> <p>『ネットは匿名か？』</p> <p>株式会社ディー・エヌ・エー カスタマーサービス部 西 雅彦 様</p> <p>インターネットの匿名性について、講演してくださいました。過去にインターネットで炎上したトラブル事例、特に犯罪、違法行為とされる写真や書き込みのアップロードはすぐに個人情報特定されてしまうこと。その情報はいつまでもインターネット上に残り大人になってもリスクがあることに関して講演してくださいました。</p> <p>『アカウント情報を改めて考える』</p> <p>株式会社サイバーエージェント メディアサポート室 中村 広毅 様</p> <p>アカウントの用語説明から始まり、企業、サービスがアカウントを用いて何を管理しているのか、アカウントへの不正アクセスの事例、パスワード管理、アカウント情報を教えてしまうリスクに関して講演してくださいました。</p> <p>参加生徒は各講演内容のメモをとりながら次の熟議に備えていました。講演内容は現在の問題点、今後の課題、これからの活用方法、企業の立場からの提案など生徒、引率の先生や参観した大人にも大変有意義なものでした。</p> <p>参加校 学校紹介 および グループ分け</p> <p>参加生徒全員が、前に出て学校ごとに簡単な自己紹介と熟議参加にあたっての意気込みを語ってもらいました。その後グループ分けして4つのグループに分けられました。</p>
----	--

第二部：熟議「大人のルール&マナー」

グループに分かれ全国消費生活相談員協会の相談員や一般社団法人 LOCAL の協力関係団体・企業の方がファシリテーターとなり、熟議を開始しました。高校生たちはルールとマナーについて、自分たちが考えていることをそれぞれ発表し、活発に意見を出し合いました。公共の場でのルールとマナーの違いや大人の使い方について、分析したグループもありました。そこからいよいよ今回のテーマの「大人のルール&マナー」ということで、付箋紙を使いながらまとめていきました。付箋紙を模造紙に貼り付けていく中で、さらに意見を整理分類して、各グループがまとめて行きました。細かなテーマにしばった班や少し大きなテーマで取り組んだ班などいろいろとありました。

また北海道情報大学の学生さんにサポーターで入っていただき、生徒さんの年齢に近い立場から助言をいただきました。さらに、参加している協力関係団体・企業の方からも的確な助言をいただきました。

各グループとも発表内容についてしっかり話し合い、滞りなくまとめることができました。

第三部：グループ発表

・グループ発表（各グループ3分程度）

今回の発表のポイントは前半の企業さんの講演内容を、高校生が上手に活用していたことです。スマホ利用のメリット・デメリットをうまく読み取り、発表につなげていました。

さらに「読むことが少ない利用規約をどのように考えるのか」「SNSで発信する言葉に対して思いやりを持つこと」「コミュニケーションの大切さ」に関してうまくまとめていました。

（グループ発表概要）

第1班

- ・スマホの危険をテーマに話し合った。
- ・自転車に乗りながら、車を運転しながらの、ながらスマホはたいへん危険。TPOを考えて使うことが必要。
- ・その理由は、周囲に注意が向かなくなる。スマホに夢中になって、店で子どもをほったらかしにしている親をよく見かける。札幌駅のポケモンセンターで、親は入り口でスマホ、子どもは商品に噛みついてのを実際に見た。
- ・マナー、ルール以前に、子どもが一緒の時は、必要な時以外スマホを使わない。親が子どもの面倒を見るのは当たり前。
- ・解決策は、そうならないよう自分たちが強く意識していくこと。

第2班

- ・今、ネットで一番問題になっている「ルール無視」を話し合った。

・なぜバカッターは消えないのか。注目されたい、子どものような思考でやっているという話になった。こういう人たちは警察沙汰になっても、何も知らなかったと言いつける。無知という逃げ道をふさぐことが大事。

・本当に無知な人もいるが、講習するとか、ネットの人たちが協力してルールを守るよう教えると良い。

・法律で憲法が1番上のように、ルールにも順位がある。すべてに適用できる最低限のルールを法律にして、全員がマナーを守るようにできたら良い。ルールを明確にすることによって、無知な人にもルール違反するような人にもわかるようにする。いろいろな国の人が出て、すべての人に適用するのは難しいかもしれないが、日本人が多くの人に広めていけば健全なネット社会を作れるのではないかな。

第3班

・情報の信頼性・影響力、移動中のながらスマホ、利用規約について話し合った。

・18歳、高3で選挙権を持つことになった。高校生も政治や様々な事件に関心を持たなければならない。

・若者によるSNSを使った政治活動が活発になっているが、ネットだけの情報収集では情報が偏る。Twitterは文字制限があり情報が限られる。新聞やテレビを見て自分たちの将来を決めることが必要。信頼できる情報か確かめることも重要。

・公共交通機関では携帯の電源を切るよう放送があっても、電話に出る人をよく見かける。地下鉄でみんな同じ体勢でスマホをいじっている姿も気になる。車の運転者が赤信号でスマホを取り出し、青になっても発進が遅れることもある。

・危険を伴う移動中のながらスマホは止める。公共のルールを守って使えるようになると良い。

・アカウントを作る際、ちゃんと利用規約を読んだことがある人は挙手を。半数が読まないことがわかった。とにかく文章が長い、言葉が難しいことが問題。短くまとめてくれると自分たちも読める。

第4班

・大人が勝手に作った規制について話し合った。

・テレビの不完全な話、大げさな表現を鵜呑みにすることについて考えた。

・子供たちは好奇心を持っており、パソコン、ゲームをやりたくなってしまう。

・強くなりたくてゲームで課金する。それを親が規制する。子どもは抜け道を考える。親はさらに規制する。やりたい気持ちが強くなって、依存症になる。

・解決策は、ルールの中でどれだけ楽しんで遊ぶかということ。時間を決める。ネットする前にやらなければいけないことを済ませる。規制できる強い心を自分自身が持つ。

・家族と協力して、違うことに興味を持つようにすれば決めたルールの中でやっていけるのでは。ルールやマナーを家族で話し合えば、もう少し良くなるのではないかと考えた。

	<p>・ルールを押しつけるのではなく、みんなで考え納得したものを自分たちが守るようになると良い。</p> <p>講評 北海道情報大学 高井 那実 様</p> <p>はじめに、「本日参加した高校生の皆さんは最初は緊張したと思うが、発表の時は笑顔も見られ充実していたと思う。実体験に基づいて問題点がよくまとまっていたわかりやすかった。」という点について話されました。</p> <p>次に各グループの発表について、それぞれ講評がありました。「情報と信頼性というメディアリテラシーの問題、ルール作りへの参加、インターネット利用に関して知識のない人に対する啓蒙に気づいてくれたことは頼もしい。自分たちでルールを意識していくことは難しいが、本日の熟議を2回目で、さらに掘り下げていってもらいたい。」とコメントがありました。</p> <p>最後に、羽衣学園高校 米田 謙三先生より、第二回の参加呼びかけをいただきました。</p>
参加校：	北海道札幌手稲高等学校、北海道旭川工業高等学校、北海道札幌東豊高等学校、北海道静内農業高等学校、北海道札幌旭丘高等学校
日 時：	2015年9月27日（日）13:30-17:00
場 所：	内田洋行・札幌ユビキタス協創広場 U-cala 札幌市中央区北1条東4丁目1-1 サッポロファクトリー1条館1階
参加人数：	熟議参加生徒 21人 見学者 28人（教員・教育関係者・その他） 合計： 49人
熟議グループ：	<p>熟議参加者が高校生のため匿名とさせていただきます。（敬称略）</p> <p>【第1班】6人</p> <p>北海道静内農業高等学校 2年 男子 北海道札幌手稲高等学校 2年 男子 北海道札幌旭丘高等学校 1年 男子 北海道札幌東豊高等学校 2年 女子 北海道札幌東豊高等学校 2年 男子 北海道札幌東豊高等学校 3年 女子</p> <p>〔ファシリテーター〕 （株）ディー・エヌ・エー 西 雅彦</p> <p>【第2班】5人</p> <p>北海道旭川工業高等学校 2年 男子 北海道札幌旭丘高等学校 1年 男子 北海道札幌手稲高等学校 2年 男子 北海道札幌東豊高等学校 1年 女子 北海道札幌東豊高等学校 1年 女子</p>

〔ファシリテーター〕

一般社団法人 LOCAL 三谷 公美

【第3班】5人

北海道札幌東豊高等学校 1年 女子

北海道札幌東豊高等学校 1年 女子

北海道札幌手稲高等学校 2年 女子

北海道旭川工業高等学校 2年 男子

北海道札幌旭丘高等学校 1年 男子

〔ファシリテーター〕

全国消費生活相談員協会北海道支部 山口 博美

〔ファシリテーター補助〕

北海道情報大学4年 深川 優菜

【第4班】5人

北海道静内農業高等学校 2年 男子

北海道札幌旭丘高等学校 1年 女子

北海道旭川工業高等学校 2年 女子

北海道札幌東豊高等学校 1年 女子

北海道札幌東豊高等学校 2年 男子

〔ファシリテーター〕

一般社団法人 LOCAL 蒲田 拓也

4. 主担当

羽衣学園高校	米田	司会
安心ネットづくり促進協議会	吉村 他	事務局、庶務、受付
草の根サイバーセキュリティ運動 全国連絡会	吉岡	庶務、受付
各地協力団体、事業者等		挨拶、講演、現地調整、ファシリテーター、書記、 記録（撮影）、 他
内田洋行	舟根、齋藤	会場設営、機材準備等

(開催後の予定)

5. 高校生 ICT Conference 2015 サミット

高校生 ICT Conference 2015 サミットは、各地で開催された Conference の成果を高校生の代表として提言をまとめるための場です。その代表者の選考は以下の手順によります。

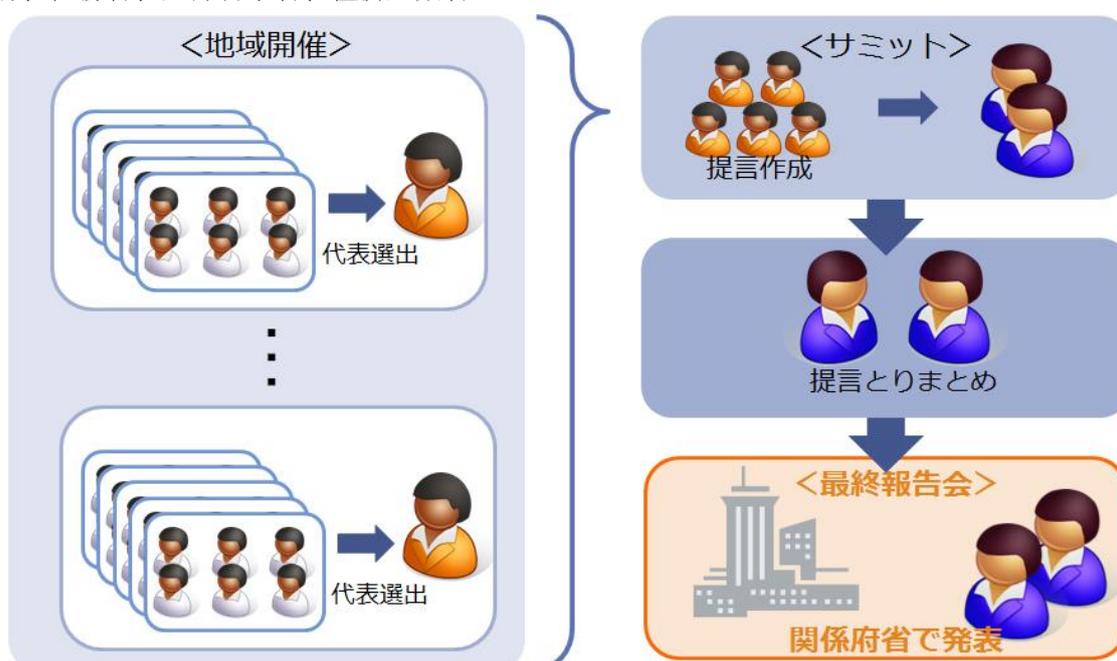
- 1) 参加が決まった場合、参加生徒を決めていただき、事前に登録をする
- 2) 終了後、各校の引率教職員と参加校代表生徒の投票を基に代表を選出
- 3) 各地の代表者でサミット開催
- 4) サミット終了後、最終報告会で発表する代表 2 名を上記手順と同様に選出
- 5) 最終報告会代表者が、サミットの内容を提言にまとめ、最終報告会で提言発表を行う

6. 高校生 ICT Conference 最終報告会

高校生 ICT Conference 2015 サミットで検討された提言を、選出された代表者 2 名が報告用にとりまとめを行い、関係府省にて報告を行うとともに、関係府省担当者との意見交換によりコミュニケーションを諮る。

【報告先予定府省】

内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省



7. 高校生 ICT Conference の成果物と終了後の対応

- 1) グループ発表の画面の撮影（又は画像保存）
- 2) Conference 終了後、発表の画像と併せて高校生 ICT Conference 2015 のサイトにアップデート
- 3) 終了後、講評と併せて、各会場責任者にて取りまとめ
- 4) 高校生 ICT Conference 2015 サミット終了後、実行委員会にて取りまとめ
- 5) 高校生 ICT Conference 2015 サミット代表者による最終報告会用資料の作成
- 6) 最終報告会での発表